

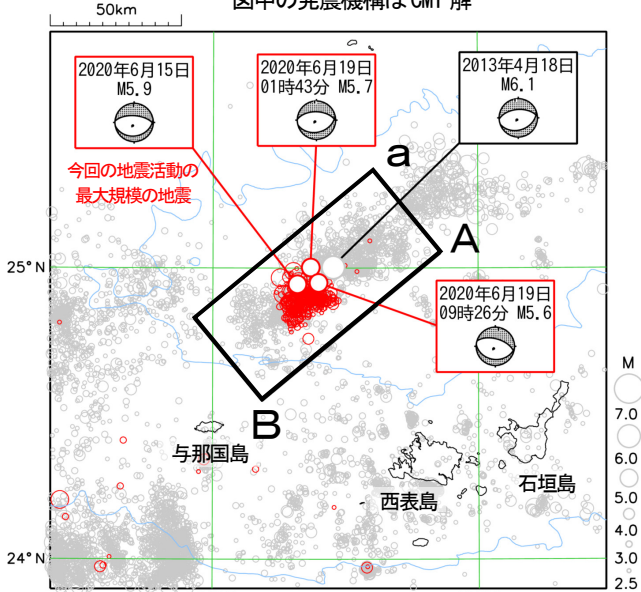
令和2年6月 地震・火山月報（防災編）

6月14日以降の与那国島近海の地震活動

震央分布図

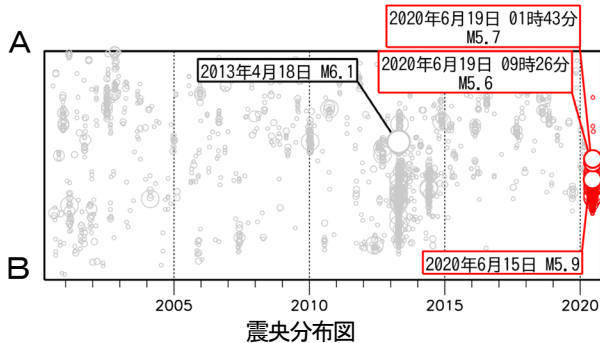
(2000年7月1日～2020年6月30日、
深さ0km～60km、 $M \geq 2.5$)

2020年6月14日以降の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解



領域a内で2013年4月と今回（2020年6月14日～30日）の地震活動について、規模の大きい地震に吹き出しをつけた。
図中の青色の等値線は水深1500mを示す

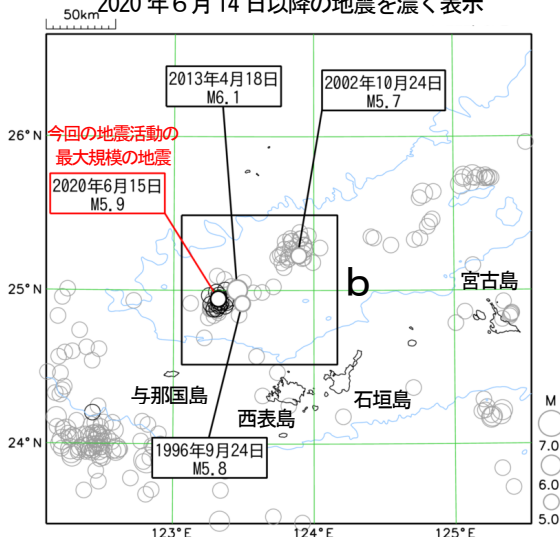
領域a内の時空間分布図（A－B投影）
(2000年7月1日～2020年6月30日)



震央分布図

(1990年1月1日～2020年6月30日、
深さ0km～60km、 $M \geq 5.0$)

2020年6月14日以降の地震を濃く表示



図中の青色の等値線は水深1500mを示す

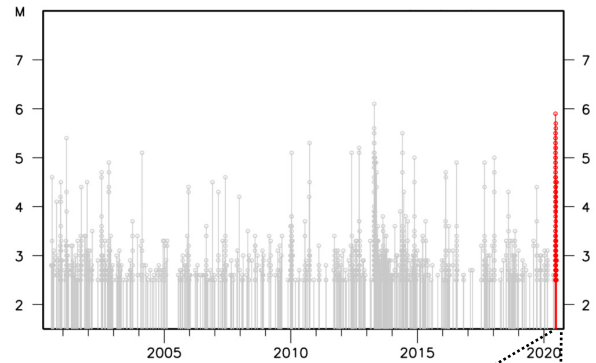
2020年6月14日から与那国島近海で地震活動が活発になり、30日までに震度1以上を観測する地震が9回（震度2：2回、震度1：7回）発生している。そのうち最大規模の地震は6月15日04時26分に与那国島近海で発生したM5.9の地震（最大震度1）であり、発震機構（CMT解）は南北方向に張力軸を持つ正断層型である。

この地震活動は、沖縄トラフでの活動で陸のプレート内で発生している。

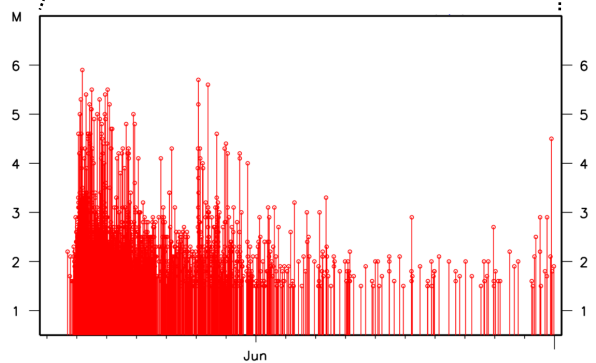
2000年7月以降の活動をみると、今回の震央付近（領域a）ではM5以上を最大規模とした地震活動の一時的な活発化が時々みられる。2013年4月の活発化の際には同月18日にM6.1の地震（最大震度1）が発生した。

1990年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5以上の地震が時々発生している。

領域a内のM－T図



(2020年6月14日～30日、 $M \geq 1.5$)



領域b内のM－T図

